

WCRP

World Conference of Religions for Peace Japan

12
2023
December
No. 530



「WCRP いのちの森」植樹会記念植樹から



こころの扉—「大仏殿での式典を思い出しながら」 上司永照	2
苗木に祈りを込めて「植樹会」	3
気候変動会議（COP28）に寄せて	4
ウクライナ支援報告／第2回グローバル難民フォーラム	5
アジア宗教者平和会議（ACRP）執行委員会開催	6
アジア太平洋女性信仰者ネットワーク・バリ会合の開催	7
平和研究所 第7回研究会	7
トルコ・シリア大地震第二期支援決定	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動	8



「大仏殿での式典を思い出しながら」

この会報への原稿執筆依頼を受け、思い出すことができました。平成22年9月25日午後、前年からWCRP日本青年部会によって働きかけられていた「アームズ・ダウン！共にすべてのいのちを守るためのキャンペーン」署名運動最終日の式典会場として、大仏殿内参道の西側芝生に3500人が集結したことです。

現在も世界中から多くの参拝者が訪れる大仏殿は、奈良時代の創建です。都の奈良が「咲く花の匂うが如く」と謳われ華やかかなりし聖武天皇治世のこの時代は、一方

長 務 宗 宗 華
長 執 寺 大 東
上 司 永 照



で、紛争があり、大地震、早魃飢饉、そして疫病の流行が続く等、命が次々に失われる、憂いの時代でもありました。全ての責めを負う帝は悩みぬきました。たどりついた答えが大仏造立でした。驚くことに、その発願の詔は、国の安泰や人類の繁栄を説くものではなく、願いは「乾坤相泰 動植咸栄」に集約され、「一枝の草・一把りの土を持ちて」と民に呼び掛けるものでした。天地の営みが順調であり、全ての動植物が栄えることを願わんがための造像であり、小さくても、一人一人の力を集め

て造ることに意味があると。負担の大きい巨大事業であったはずですが、その後、二度の災禍にも再建されたのは、込められた願いが、決して忘れてはいけないものだったからでしょう。転じて、現代社会に眼を移せば、科学文明の発達目覚ましく、IT革命、AIの登場等々、未来への可能性は益々広がります。一方、天災、人災は多発し、疫病の流行が世界を震撼させ、戦争は止まず、尊い命が失われています。天平時代の憂いと変わらないではないですか。アームズ・ダウンの呼び掛けである、核兵器の廃絶や、軍事費を減らし、世界中の貧困や、人権、福祉、医療、環境の持続などの問題解決に振り向けようという「祈り」の本質は、天平時代の造立の理念に通じます。私達、人間の行いが、この憂いを作っているならば、その人間がそれを少なくしなければなりません。当山がこのキャンペーンに賛同し、大仏殿が式典会場となった理由でもあります。平和や、それに繋がる環境の問題については、全ての者が向き合うべき課題であらうと思いますが、殊に宗教者においては、尚更でしょう。そしてグローバル時代と言われて久しく、民族や宗教、文化を相互に理解しあいながらの話し合いは必然となつていきます。13年前のキャンペーンでは、1127万7422人（世界では2010万2746人）の署名があつたと聞きました。この数字の意味することは、巨大な政治や財力だけでなく、個としては小さくても、夫々の想いを結集して造られた大仏さまが災禍を乗り越えて、今も座しておられる意味と共に、改めて問うていかなければならないことでしょう。真の平和実現の大願を成就せんことを心から祈ります。

苗木に祈りを込めて「植樹会」

気候危機タスクフォースと堀口天満天神社周辺緑地を守る会（埼玉県所沢市）は11月18日、「第4回植樹会」を所沢市にある「WCRPいのちの森」で共催した。これにWCRP日本委員会加盟教団の信徒・信者や埼玉県・所沢市の行政関係者など約40人が参加した。

開会式は堀口自治会館で行われ、女優・タレントの太田唯さんの司会のもと、「いのちの森」の土地を共同管理する緑地を守る会の中村明会長、園田稔同タスクフォース運営委員（秩父神社名誉宮司）が開会あいさつをした。次に山本悟司氏（埼玉県副知



記念植樹

事）、柴山昌彦氏（元文部科学大臣）、岡田しずか氏（埼玉県議会副議長）、小野塚勝俊氏（所沢市長）が来賓あいさつに立つ



植樹の様子

営委員や来賓、参加者代表の10人がヤマザクラとコナラの苗木を記念植樹した。

その後、グループに分かれた参加者たちもヤマザクラとコナラの苗木12本に健やかな成長への願いを込めながら、ていねいに植えた。

参加者からは「今年も植樹ができてよかった」「親子で参加できてありがたい」などの感想が聞かれた。

最後に、緑地を守る会の中村典之氏が閉会あいさつを述べた。中村氏は「これまで4回植樹活動を行ってきたが、植樹した苗木の多くが健全に成長を続けている」と述べ、これまでの植樹活動の参加者へ感謝を示すとともに里山の健全な発展を願った。

「いのちの森」は、2020年に林学の専門家による植生調査を実施した際、「良い環

た。

続いて参加者は、堀口天満天神社を経由し、自然と文化を感じながら「いのちの森」へ移動。植樹場所では、園田運

境づくりがなされている」との評価を得た。これまで多くのボランティアによる苗木の植樹と保全整備活動によって、里山の植生がはぐくまれ、県や市からも今後の活動に期待が寄せられている。



記念写真

気候変動会議（COP28）に寄せて 気候危機タスクフォース

田中庸仁責任者に聞く

国連の気候変動に関する枠組みの条約締結国会議（COP28）が11月30日から12月13日まで、アラブ首長国連邦で行われた。この会議を前に、WCRP日本委員会の取り組み、今後の展望などについて、気候危機タスクフォースの田中庸仁責任者（真生会会長）にインタビューした。

手遅れになる前に行動を

——気候温暖化に対する取り組みを、どのように感じられていますか。

私の暮らす岐阜もそうでしたが、今年の日本の夏は、一番暑かったそうです。気象庁によると、6月から8月の平均気温が平年を1・76度上回り、1898年の統計開始以来最高



田中責任者

だったとのことです。また、世界気象機関（WMO）は、気候変

動会議の開幕日に、2023年の世界の平均気温は、記録のある1850年以降で最も高くなり、1月から10月の気温は産業革命前より約1・4度高くなったと発表しました。世界中の人びとが肌感覚として気候温暖化を実感したのではないのでしょうか。そうしたなかで、国連のグテーレス事務総長が、温暖化ではなく「地球沸騰の時代が来た」と警告を発したにもかかわらず、十分な取り組みができていないと感じます。科学者の中にも温室効果ガスによる温暖化を疑う人もいるそうですから、手遅れになる前に行動しなくてはなりません。

一人が一本の木を植える

——日本委員会も温暖化の問題に取り組んできましたか。

韓国で開かれた2014年の第8回アジア宗教者平和会議（ACRP）の仁川宣言で「一人が一本の木を植える」ことが提唱されたことを受け、タスクフォースを立ち上げ、2017年から埼玉県所沢市の丘陵地をお借りして、「いのちの森」里山再生プロジェクトを行ってきました。多くのボランティアや市民の方々の協力を得て、植樹やタケノコ掘り、下草刈りなどを行って

ます。また、「感じる地球ワークショップ」の開催や「気候正義のための宗教間会議」などへの参画を通じた啓発活動を行ってきました。

グローバルサウスの人びとと共に

——今後の展望をお聞かせください。

2021年に開催したWCRP創設50周年記念式典において「WJアジェンダ2030」として、2030年までの行動目標の六つを発表しました。そのアジェンダ2に「気候危機の打開に向けたグローバルサウスとの連携」があります。そこには、「気候危機に一刻の猶予もありません。（中略）国際的なネットワークを通じて人びとに地球と共に生きる行動を呼びかけます」と掲げられています。温暖化によって大きな被害を受けるのは、化石燃料を大量に消費してきた先進国ではなく、いわゆるグローバルサウスの国々という問題もあります。私たちは、このような最も影響を受ける弱い立場にある人びとの声に耳を傾けながら連携し、多くの人に一刻も早く正しい行動を起こせしめていただけるような取り組みを進めて行きたいと考えています。

（聞き手＝山越教雄・日本委員会次長）

ウクライナ支援報告

WCRP日本委員会は、ウクライナ情勢への支援として、今年1月にウクライナ国内で活動する2団体 (Eleos Ukraine、Mudra Sprava) への財的支援を行った。この支援はWCRP日本委員会へ寄せられたウクライナ緊急支援募金から拠出されたもの。支援団体からの報告を紹介する。

Eleos Ukraine (エロス・ウクライン)

ウクライナ・ケルソン市内に被災者のためのスペースを設け、そこで人びとが適切な支援と専門家による相談が受けられるような体制を構築しました。具体的には、戦争や洪水によって被害を受けた人びとに対し、ソーシャルワーカーや弁護士との個別相談の場を設け、心理的ケアを行うと共に、経済支援や失った住居の補償などの相談を行い



ました。また、被災者同士のサポートグループの会合を月1回開催。戦争や洪水で被害を受けた人びとに対しては、食料と衛生キット235人分を提供しました。さらに、子どもたちを支援する特別プログラムを8回行い、16人の子どもたちが参加しました。子どもたちへのプログラムにより、子どもやその家族の心理的、情緒的、社会的な課題に改善が見られました。

Mudra Sprava (ムドリ・スプラヴァ)

WCRP日本委員会からの資金援助を受けて、2023年5月から9月までにウクライナの人びとに3320セットの食料を提供し、640人以上がその恩恵を受けました。一つの食品パッケージには栄養バランスが考えられた1週間分(2人用)の食料が含まれています。また食



料を取りに來れない高齢者、障がい者、遠隔に住む人びとには物資を届けました。

第2回グローバル難民フォーラム

2019年にUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が立ち上げ、難民支援に関して議論する国際会議「グローバル難民フォーラム(GRF)」の第2回が12月13日から15日まで、スイス・ジュネーブで開催された。

GRFは、4年に一度、各国政府、国際機関、人道機関、自治体、開発機関、民間セクター、難民当事者ら一堂に会し、故郷を追われた人びとと受け入れ国に対する支援、協力、連帯、解決策などの改善に向けた議論を行う場である。今回は、コロンビア、フランス、ヨルダン、ニジェール、ウガンダと共に、日本も共同議長国を務めた。WCRP日本委員会は、この第2回GRFに向けて、難民保護と人道支援に従事する団体可以自由に参加できる開かれたフォーラムである日本UNHCR・NGO評議会(JIFUN)に参加するさまざまな団体と共に勉強会や情報交換を行ってきた。また、難民受け入れに関するプレッジを提出し、その概要はUNHCR駐日事務所のウェブサイトにも掲載された。

アジア宗教者平和会議（ACRRP） 執行委員会の開催

ACRRPは12月4日、執行委員会をオンラインで開催し、第10回ACRRP大会や国連気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）などについて話し合った。WCRP日本委員会からは、ACRRP執行委員を務める戸松義晴理事長、黒住宗道理事、國富敬二理事らが出席した。

ACRRP規約は、ACRRP大会の5年に1回の開催を定めている。今回の執行委員会では、前回の第9回ACRRP大会が2021年に開催されたことから、次回の第10回大会を26年に開催することを決定した。第10回大会は、ACRRPが1976年に創設されてから50年目の記念大会となる。また執行委員会は、第10回大会の準備を進める大会準備委員会の設置を決め、9人からなる委員を選出した。今後、大会準備委員会を通して、大会テーマやプログラム、参加者概要などが具体的に検討される。

また、執行委員会では、ACRRP活動を財的に支えるアジア・トラスティーズに、Religion for Peace国際トラスティーズ日本グループの田中常隆代表と五十嵐一夫同常任理事の就任を決定した。

そして、執行委員会は、現在、UAEのドバイで開催されているCOP28に向けての緊急声明を発表した。気候変動の深刻な影響を受けている現状を踏まえ、COP28がより踏み込んだ温暖化対策に合意するよう要請した。

◆COP28に向けたACRRP緊急アピール （一部抜粋）

COP28が行われている今、私たちアジアの宗教者は、現在の気候危機に対する深い憂慮を示し、地球と人類の持続可能性に向けて、世界の政治指導者に対する切なる要望を以下の通り表明する。

- ・世界の気候変動対策は、軌道から大きく外れている。政治的なかげ声だけでなく、いつ誰がどんな削減策を実施するかを具体的に示し、対策を実効性のあるものにする
- ・各国は、偏狭な自国中心主義や過剰な利益追求主義を棄て、人類全体の共通利益のために団結すること
- ・昨年の二酸化炭素排出量は過去最高を更新した。各国は、2030年までに19年比で48%の排出量を削減するために、より野心的な削減目標を設定すること
- ・気候危機は様々な次元において人権問題である。各国、特に先進国は、気候変動

によって被害を被る人々に対する、より実行的な支援を確約し、強化すること

- ・気候変動の結果、懸念が高まっており、すべての国が自国民の食料安全保障を確保しなければならない

私たちは、ACRRPは、COP28の政治指導者とともに持続可能な世界の実現に対する責務を果たす決意である。私たちは第9回ACRRP大会（2021年）において、宗教コミュニティの社会的責任を再認識し、「誰一人取り残さない」世界の実現に向けて、地球上のすべての生命の共同体を共同で構築し、クリーンな世界を将来の世代に残すことを誓い合った。

私たちは、2023年11月7日に発表された「COP28に向けてのアブダビ宗教間声明」における「1.5℃を達成可能な範囲にとどめ、影響を受けた脆弱なコミュニティに貢献するための変革的行動への呼びかけ」に賛同する。ACRRPは、世界の宗教指導者とともに、COP28が真に地球と人類の持続可能性を高める有益な契機となるよう、心から祈りを捧げ、かつ私たち自身も平和に対する責務を果たすべく、たゆまず行動するとの誓いを新たにしているものである。

※緊急アピール文は、WCRP日本委員会とACRRPホームページで全文掲載

アジア太平洋女性信仰者

ネットワーク・バリ会合開催

アジア太平洋女性信仰者ネットワーク（APWOFN）は、11月20日から22日まで、インドネシアのバリ島で会合を開き、同ネットワーク委員ら16人が参加した。WCRP日本委員会女性部会から河田尚子副部長が同ネットワーク事務局長として参加した。



バリ会合は、2024年度の活動計画を話し合うため、同ネットワーク議長のエルガ・サラプン師の受け入れで、初めて対面で会合を行った。同ネットワークは、22年度から「人身取引防止」「気候変動」「平和構築」のテーマに取り組み、オンラインセミナーを開催してきた。会合では、24年度も引き続き、この三つのテーマに取り組むことが承認され、プロジェクトの目的、進め方、参加メンバー、予算について討議した。また、同ネットワーク強化のためのSNS発信や、各国女性ネットワークの活動内容が報告された。

最終日には、バリ島内で最古と言われる

村を訪問したほか、第1回ACRP大会から大会役員を歴任したゲドン・オカ師（インドネシア、ヒンズー教、2002年逝去）のガンディー・アシラムを訪問した。

平和研究所第7回研究会

齋藤忠夫所員

平和研究所の第7回研究会が11月28日、オンラインで開催され、齋藤忠夫所員（東北大学名誉教授）が『未来の食糧危機を救い、世界の飢餓を救うフードテック』をテーマに発表した。

齋藤所員は、「いま世界は深刻な食糧不足で約3億5千万人が生命の危機に瀕しており、現在の傾向が続くと2030年までに飢餓人口は8億4千万人に達する」と警鐘を鳴らした。その背景には、畜産業が地球環境に与える負荷（広大な土地と大量の水の必要性、二酸化炭素の排出）の大きさと、それに伴う将来のたんぱく質不足があるという。

そこで、持続可能な食料生産システムとして代替たんぱく質が注目されており、「食の問題を技術で解決する『フードテック』による新たなたんぱく質の開発や昆虫食の導入が欠かせない」と指摘した。また、動植物由来の培養肉は、無菌の環境で培養するため、食中毒の原因となる大腸菌などの微生物混入が極めて少ないという。

代替肉や昆虫食は「量産化やコスト削減の問題をクリアし、安全性に対する不安を払拭して消費者の理解を深めれば、さまざまな課題はあるが世界の食糧危機を救うポテンシャルは十分にある」と語った。

トルコ・シリア大地震第二期支援決定

今年2月にトルコ南部で発生した地震を受け、WCRP日本委員会は、緊急支援及び第一期支援として八つの団体を通じて支援活動を行い、10月下旬に、その支援活動と現地状況を確認するための現地調査を行った。その調査報告を受け、第二期支援の緊急性などが考慮され、以下の三つの団体に對する支援が決定し、執行手続きを進めた。

①NPO法人パルシツクの実施する越冬支援事業…200万円／カフラマンマラシユ県キョクスン郡の九つの村ではいまだテントで暮らす家も多い。冬には2mの雪に覆われマイナス30℃になる冬を乗り越えるための支援。※11月21日付で送金済み



キッズ・レインボー高学年クラスの子どもたち

②キッズ・レインボーの実施するシリアの子どもたちへの心理的サポート事業…2万3千ユーロ（約370万円）／カジアンテプ近郊のシリアから逃れ

た人びとが集まって暮らす地区には、学校に通うことのできない多くの子どもたちがいる。これらの子どもたちは避難生活のなか地震に見舞われ、大きなストレスを抱えている。これらの子どもたち及び家族への心理的ケア事業への支援。

③市民活動ネットワークSAHAの実施するグループ支援事業…3万3千米ドル（約500万円）／最も被害の大きかった地域の一つであるハタイ県で、住民に千食規模の食事提供サービスを行う二つのグループと、パンの製作販売などを行うことで生活再建を図ろうと活動する女性グループなどへの支援。

今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し、新しい熟語を作ります。

自観（じかん）

忙しく過す中で、自分自身を見（観）つめる時間が多かった一カ月でした。これから「自観」しながら感謝の心で過ごして行きたいと思えます。

WCRPの活動

《12月》

- 4日 災害タスクフォース第3回会合（東京・普門メディアセンター）
- 5日 総合企画委員会（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）
- 11日 平和研究所第8回所員会議（東京・新宿）
- 12日 ストップ！核依存タスクフォース第4回会合（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）
- 14日 気候危機タスクフォース第2回会合（オンライン開催）
- 18日 気候危機タスクフォース「いのちの森プロジェクト」森の整備／地権者懇談会（埼玉・所沢）
- 20日 青年部会「日韓青年リーダー交流会（韓国・ソウル）
- 23日 和解の教育タスクフォース第3回会合（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）

掲載内容の無断転載を禁ず。